

第3回「戦争と医の倫理」の検証を進める会 世話人会 会議報告

- ◇日時 2010年2月11日(木・祝日) 13時～16時
- ◇場所 東京保険医協会 セミナールーム
- ◇参加者 石川徹、塩安佳樹各代表世話人、小俣和一郎、車谷容子、小島荘明、肥田泰、光石忠敬、吉中丈志各常任世話人、住江憲勇事務局長、飯塚讓、岡田朝志、刈田啓史郎、松村高夫、村林彰各世話人
(事務局) 室井正、木村徳秀、長瀬文雄、小林耕治各氏
- ◇議長 塩安佳樹代表世話人
冒頭、保団連事務局の体制変更にもない、担当事務局が山下芳花氏から小林耕治氏に交代した旨の報告があり、小林氏より自己紹介が行われた。

◇報告・協議事項

1. 前回世話人会以降の会議報告などについて

- (1) 設立大会当日開催した第1回世話人会以降の会議報告として、下記の会議報告をもとに概要が報告され了承した。
- ①第2回世話人会 会議報告(09.11.3)
 - ②第1回常任世話人会 会議報告(09.12.5)
 - ③第2回常任世話人会 会議報告(10.1.11)
- (2) 常任世話人会でまとめた本会の「運営に関する規定」の報告があり了承した。
- (3) 「ご賛同・ご協力のお願ひリーフ」が作成され、賛同の呼びかけを開始した旨の報告があり、会議参加者にリーフが配布された。
- (4) 常任世話人会でまとめた「来年前半までの主な検証活動のスケジュール(案)」の報告があり了承した。
- (5) 今回の世話人会の議題に関連して寄せられた意見として、①第2回常任世話人会会議報告の歴史検証部分の追補、②医学会総会へのいっそうの要請、③独自企画の活動について、各地方でも独自に発想した企画を行い、東京の企画を盛り上げていく工夫を、については、関連議題で検討することとした。

2. 第28回日本医学会総会会頭への要請結果と今後の対応について

- (1) 第28回日本医学会総会会頭への要望と懇談の要請(09.12.7)については、「多忙のため意に沿うことが困難であること。前回実行委員会の皆様と準備委員長、学術委員長が懇談していることもあり、懇談は困難です」との返答(10.1.29)が寄せられた旨の報告が行われた。

討論では、日本医学会が本会からの要請や懇談を回避する姿勢について質疑があり、731部隊などに関し、医学関係者の中には、個人としては問題と考へても、医学界全体として不問にする体質があること。こうした根底に731部隊の総括ができていないことも影響していること。1月31日に発表された日中歴史共同研究の報告書でも、中国側では「731部隊での人体実験や現在も続く遺棄化学兵器の被害」にも言及していることに対し、日本側では731部隊などには一切触れていないことにも現れている、などの意見交換があり、本会が活動を進める意義を再確認した。その上で、日本医学会には、今後とも多様な方法で懇談の機会を予定することとした。

なお、日本医師会長への要請については、4月に日本医師会の会長選挙が予定されていることから、その後に対応を具体化する。

- (2) 第28回日本医学会総会の記者発表会が、2月24日、日本医師会館で行われることに

対応し、事前に本会の活動などを各報道機関に広報することとした。

3. 政府への731部隊関係資料等の公開要請の現状と今後の対応

(1) 政府・防衛省への公開要請について

政府・与党が、各省庁への要請は民主党幹事長室を窓口に行っていることから、幹事長室を通じて要望と要請書(10.1.21)を提出した。その後、幹事長室への検討状況の照会に対し、「要望の趣旨通りと判定し、防衛省政務三役に伝える段階」との返答(10.2.8)があったことが報告された。

討論では、「731細菌戦部隊の実態を明らかにする会」の代表をされている松村高夫世話人から、明らかにする会として1月22日に生方民主党副幹事長と会い、要請内容の説明を行った旨の報告がされた。その要点は、特に米国から3万点に及ぶ731部隊関連の資料が日本側に返還されたことが米国議会で証言されているにも関わらず、日本側では曖昧にされてきたことに触れて資料公開を求めたこと(政府間で確認された返還書類の目録の存在を含む)。防衛省政務官にも文書で要請をとの話があり提出したこと、である。

以上の到達状況を確認するとともに、今後の政府・防衛省側の対応を見た上で、資料公開が進まない事態が予想されるときは、国会内での市民集会や各政党への要請なども検討することとした。

(2) 関係団体との連携について

同様の趣旨で活動している「731細菌戦部隊の実態を明らかにする会」の要望書(10.1.7)、「15年戦争と日本の医学医療研究会」の要請書(10.1.22)も紹介され、今後、政府・防衛省への公開要請の行動は、連携して進めることを再確認した。

4. 本会の独自企画案の検討について

(1) 小侯常任世話人から前回提案補足の企画案(2)が提案され、下記の点を確認した。

①国際シンポジウムの準備として、ドイツ人の招聘については、Till Bastian氏を対象とし、小侯常任世話人起案の依頼文(ドイツ文と和訳の要旨)を了承した。

なお、ドイツの招聘者からは、ドイツの医師会などがどのような経緯でナチズムとの関わりを総括してきたのかに触れていただき、日本での状況と比較し、ドイツの教訓に学ぶ視点から深めることとする。

米国については、ペンシルヴェニア大学にこの問題の研究者が多いことも念頭におき、中国を含めて、今後、シンポジウムの内容と人選などを検討することとした。

②A群の歴史検証には、P(ポスター)の展示を含むものとして準備し、ポスターセッションとしての演題発表も予定する方向で検討することとした。

なお、防衛省の資料公開の動向によっては、公開資料の解析など、その問題への対応が優先されることもあり得る。

③刈田世話人より、独自企画の活動について、各地方でも独自に地方の特色を生かした企画を実施し、東京での企画を盛り上げていく工夫をとの提案があり、今後の活動で検討していくこととした。

(2) 上記との関連で「保団連医療研究集会」での企画の検討について

本会の独自企画と並行して、保団連では「保団連医療研究集会」(本年10月9日～10日、東京・都市センターホテルで開催)の中で、本会と連携した企画を予定している。本会として、下記の企画骨子で具体化を検討することとした。

<企画骨子>「戦争と医の倫理」シンポジウム(市民公開)

* A群(歴史検証)、B群(日独比較検証史) C群(医療倫理)の各責任者から到達点

の報告。それを受けて「戦争と医の倫理」の総合討論（フロア含む）

*総合司会（代表世話人から予定する）

なお、「保団連医療研究集会」は、保団連主催の集会であり、企画と運営の最終責任は保団連にあること。今回は、進める会が設立されたことと、来年4月の医学会総会が東京で開催されることもあり、進める会と連携して行う予定にしていること。企画内容の決定や準備作業の日程は、保団連医療研究集会のスケジュールに合わせる事となる旨も了承した。

(3) 独自企画の会場の検討について

事務局での会議室情報を報告。今後の企画内容に応じて会場確保を行うこととした。

5. その他

(1) 「15年戦争と日本の医学医療研究会」研究会（公開）の案内が紹介された。

日時 2010年3月21日（日）午前11時～午後7時30分（創立10周年記念懇親会含む）

場所 京都大学医学部本館管理棟2階基礎第2講義室

(2) 新華社通信・東京支局からの取材要請への対応について

松村高夫世話人を通じ要請があり、本日の会議終了後、取材を受ける旨の報告があった。

(3) 情報資料について

731部隊関係者の郵便物を検閲（毎日新聞:2/6）など5点の新聞報道の記事が紹介された。

(4) 次回の会議予定

第3回常任世話人会 2010年4月11日（日）午後1時～4時 保団連会議室

第4回世話人会 2010年6月6日（日）午後1時～4時 東京保険医協会会議室

以上